

## 眼科用語集第6版における編集の概要と凡例

### 〔編集の概要〕

1. 眼科学の分野で使用される用語および、これに関連の深い用語を採録する。また、他領域の用語であっても眼科に必要な用語、採録されていると便利であると考えられる用語は採録する。他領域の用語については、原則として日本医学会医学用語辞典の用語表記に従う。
2. 日本眼科学会関連学会から提案のあった用語も積極的に取り入れる一方で、用語の統一のための調整を行う。調整は日本眼科学会用語委員会での検討結果に基づくこととする。
3. 具体的な用語の取り扱いは日本眼科学会用語集第5版の凡例を基本とするが、具体例に則して統一の対応を図る。
4. 見出し語〔欧語（英語，ラテン語，ドイツ語，フランス語のこと。以下，同じ）〕に同義語がある場合は，推奨する欧語を「推奨用語」の欄に表示する。
5. 略語については，濫用を避けることに留意しつつ選択する。したがって，眼科領域で一般的に普及している略語についてのみ採録する。
6. 眼科領域で標準的に使用される主要用語は背景を桃色 ■ とし，冊子体には掲載していない使用頻度の低い用語は背景を白色 □ とし，それら以外の用語は背景を緑色 ■ で表示する。

#### 〈主要用語の選択基準〉

尺度は、「頻度」，「重要性」，「学術性」，「有用性」とする。

病名の用語：眼科領域で一般的に高頻度に使用される用語（例：age-related macular degeneration）。まれな疾患でも学術上重要と考えられる用語（例：retinal angiomatous proliferation）。

検査の用語：ごく一般的な検査法のみ主要用語とする（例：optical coherence tomography）。

手術の用語：基本的な手術手技のみ主要用語とする（例：keratoplasty）。

組織/解剖の用語：臨床上重要と考えられる解剖学用語のみ主要用語とする（例：Descemet membrane）。

### 〔表記の原則および凡例〕

#### I 見出し語（欧語）

1. 見出し語の配列はABC昇降順で配列する。ウムラウトやアクセントは無視して配列し，セディーユは“c”として配列する。ギリシャ文字は英語のスペルに直して配列し，英語の後に（ ）に入れて示す。

例：alpha（α）

2. 英語を原則とし，綴りは米国式を主体に採用する。あわせて日常使用されているラテン語，ドイツ語，フランス語も採録する。これらについては【ラ】，【独】，【仏】を付記する。

例：ablatio falciformis congenita【ラ】

ganzfeld【独】

## débridement【仏】

3. 見出し語の頭文字は小文字とするが、人名などの固有名詞、生物学名などの名詞は大文字とする。ただし、形容詞化した人名等の頭文字は小文字とする。

例：Descemet membrane

## doppler effect

4. 略語および頭字語は原則として見出し語に採用しない。ただし、重要または広く用いられているものは採用する。

例：A-V pattern

5. 眼科領域で一般的に普及している略語（アルファベット）を、「略語」欄に示す。  
 6. 冠詞の“a”，“the”は省略する。  
 7. 漢数字，アラビア数字，ローマ数字の使用は慣用に従う。  
 8. アポストロフィ（'s）：人名を冠した用語で，所有格を表すアポストロフィは省略する。

例：Bowman's layer→Bowman layer

## II 和 語

1. 和語の同義語・異義語：「対応する和語」が分野によって異なる場合，または同じように使用される語が複数ある場合は「……，……」のようにコンマでつなぎ，推奨順に並べる。一方，意味が異なる場合は「①……，②……」のように記載する。

例：achromatopsia—1色覚，全色盲【旧】

aberration—①収差，②迷入，③異常

2. 和語の表記は漢字，ひらがな，カタカナなどの区別があるが，必ずしも統一した基準がないため比較的多いと考えられるものを記載する。

3. 欧語のカタカナ表記

- 1) 欧語を安易にカタカナ書きとして日本語用語にすることは極力避ける。原則として次の場合に限りカタカナ表記を用いてよい。

- ①日本語訳が可能な欧語でも，用語というよりは「意味」としての機能をなすだけで，臨床現場では，そうした日本語訳した用語は用いられず，原語が主として用いられている場合。

例：saccade—サカード，（衝動性眼球運動）

orthokeratology—オルソケラトロジー，角膜矯正術

compliance—コンプライアンス，服薬順守，治療法順守

- ②適当な日本語訳がなく，やむを得ずカタカナ表記する場合，日本語化したものを採用し，欧語発音に必ずしも忠実ではない。

例：dystrophy—ジストロフィ

virus—ウイルス

- ③人名に関しては極力母国語に準拠，もしくは従来，眼科領域で慣用され日本語化している場合は，日本語化したカタカナ表記を踏襲する。

例：Leber—レーベル

Purkinje—プルキンエ

Peters—ペーターズ

- 2) 必要に応じて音引き（カタカナ表記での末尾の延長記号）をつける。ただし、形容詞または一般名詞として用いられる場合は音引きをつけないことがある。

例：Doppler—ドップラー

doppler effect—ドップラ効果

- 3) 「di」：「di」の和語のディ、ジは従来の呼びならわしに準拠する。

例：Haidinger brush—ハイジンガーブラッシュ

disposable contact lens—ディスポーザブルコンタクトレンズ

4. 生物学名、物質名（化学的物質名）の表記にはひらがなもしくは慣用されている表記を使用する。
5. 簡略漢字と正字との関係は難しく、可能な限り第5版で使用した字体を使用する。個別に検討し、用いる同一用語に対する漢字の字体は統一する。「灌流」,「囊」,「剝」を用いる。「輻輳」は5版で採用された「輻湊」も同一意味で用いられているため変更しないこととする。
6. 読み方：和語に2つの発音がありうる語については、腔（くう）、頭（原則として「とう」、ただし頭痛に限り「ず」）、分泌（ぶんぴ）、重複（じゅうふく）、皺襞（すうへき）、楔（「けつ」を優先とする）、扇（「せん」を優先とする）を採用する。
7. 「性」

- 1) 形容詞＋名詞の形で、形容詞が「原因、様態、時間、空間」を表す場合、原則として性を付ける。ただし、他診療領域が主たる疾患の場合は、日本医学会医学用語辞典に従う。

例：〈原因〉 axial myopia—軸性近視, accommodative esotropia—調節性内斜視, viral conjunctivitis—ウイルス性結膜炎, tuberculous uveitis—結核性ぶどう膜炎, ischemic optic neuropathy—虚血性視神経症

〈様態〉 catarrhal conjunctivitis—カタル性結膜炎, bullous keratopathy—水疱性角膜症, granulomatous uveitis—肉芽腫性ぶどう膜炎, expulsive hemorrhage—駆逐性出血, nodular scleritis—結節性強膜炎

〈時間〉 acute angle closure glaucoma—急性閉塞隅角緑内障, chronic conjunctivitis—慢性結膜炎, progressive external ophthalmoplegia—進行性外眼筋麻痺

〈空間〉 multifocal choroiditis—多巣性脈絡膜炎, disseminated choroiditis—散在性脈絡膜炎, ectopic caruncle—異所性涙丘

- 2) 1) の例外：以下の10項目に該当する場合には、例外として性を付けない。

- ①全身性の疾患に伴う眼所見を示す場合（原因の例外）

ただし、全身、局所ともにありうる場合は、（性）とする。

例：atopic conjunctivitis—アトピー結膜炎

allergic conjunctivitis—アレルギー（性）結膜炎

- ②疾患の原因が具体的な微生物名を表す場合（原因の例外）

例：chlamydial conjunctivitis—クラミジア結膜炎

herpetic iridocyclitis—ヘルペス虹彩毛様体炎

- ③増殖（様態の例外）

例：proliferative diabetic retinopathy—増殖糖尿病網膜症

proliferative vitreoretinopathy—増殖硝子体網膜症

- ④ 様態を表す形容詞が具体的な物の形や構造を比喩している場合は、「性」ではなく「状」を用いる（様態の例外）。

例：dendritic keratitis—樹枝状角膜炎

filamentary keratitis—糸状角膜炎

- ⑤ 先天，後天，周期（時間の例外）

例：congenital oculomotor apraxia—先天眼球運動失行

acquired esotropia—後天内斜視

cyclic strabismus—周期斜視

- ⑥ 若年，加齢（時間の例外）。ただし，慣用から一部の両用併記を認める。

例：juvenile cataract—若年白内障

senile cataract—加齢白内障

juvenile chronic iridocyclitis—若年(性)慢性虹彩毛様体炎

- ⑦ 単眼，片眼，両眼を表す場合（空間の例外）

例：monocular diplopia—単眼複視

unilateral amblyopia—片眼弱視

inocular diplopia—両眼複視

- ⑧ 方向（水平，上下，垂直など）を表す場合（空間の例外）

例：horizontal gaze palsy—水平注視麻痺

vertical deviation—上下偏位

vertical nystagmus—垂直眼振

- ⑨ 名詞が器具，機器などの場合

例：multifocal electroretinogram—多局所網膜電図

- ⑩ 簡潔化/慣用による性の省略

例：heterochromic cataract—虹彩異色白内障

neovascular maculopathy—新生血管黄斑症

neovascular glaucoma—血管新生緑内障

- 3) 名詞+名詞の形の場合，原則として性を省く。ただし，他診療領域が主たる疾患の場合は，日本医学会医学用語辞典に従う。

例：inclusion conjunctivitis—封入体結膜炎

radiation keratitis—放射線角膜炎

steroid cataract—ステロイド白内障

normal tension glaucoma—正常眼圧緑内障

chloroquine retinopathy—クロロキン網膜症

venous stasis retinopathy—静脈うっ滞網膜症

### III 欧語・和語での括弧の意味

1. ラテン語，ドイツ語，フランス語は，それぞれ【ラ】，【独】，【仏】を付記する。

2. 特定分野の用語：特定の分野でのみ使用される用語の場合はその分野を【 】内に記載する。  
例：【解】解剖学用語（この場合、原則として【ラ】はつけない）  
【旧】旧用語，過去に使用された用語  
【俗】学術用語ではない俗語
3. 用語の説明：用語の補足的な説明事項は〔 〕内に記載する。  
例：説明；nuclear sclerosis—〔水晶体の〕核硬化  
複数形；axis〔複：axes〕
4. 互換語：見出し語中の〈 〉内の語は互換語とし，直前の語と交換して用いられることもあることを示す。  
例：frosted branch angiitis 〈angitis〉—樹氷状血管炎  
multiple vitelliform cyst—多発性卵黄状〈様〉嚢胞
5. 省略可能語：和語中の（ ）内の語は省略可能語として，（ ）の語がある場合とない場合とを示す。また，一部で用いられているが一般的ではない用語を示す。  
例：lensectomy—水晶体切除（術）  
abduction—外転，（外ひき）
6. （症），（法），（術）：（症），（法），（術）は原則として括弧書きで残す。ただし，症の扱いとして病名の場合はつける，病態の時は「症」をつけないのを原則とする。  
例：anisometropia—不同視（症）

日本眼科学会用語委員会